

# 北海道における観光地再生からの地域活性化 Tourist area and its revitalization in Hokkaido

○長瀬 督哉\* ・ 松村 寛一郎\*\*  
Tokuya Nagase \* ・ Kanichiro Matsumura\*\*

## 1. はじめに

バブル経済期に日本全国の各地でリゾート開発が行われ、観光による好景気に沸いた地域も多かった。北海道は観光資源が多く、同時期には活況を呈していた。道東の老舗のA温泉はかつて全国有数の温泉街であったが、最盛期の半分以上の旅館が廃業している。これらの施設は廃墟のままであり、有効活用できていない。この状況から脱却すべくA温泉をはじめ、B湖などの観光地を有する北海道C郡D町では再生をかけたA温泉まちづくりマスタープラン（以下、「マスタープラン」という）を作成している。このマスタープランを事例として、そこから読み取れる地域活性化、後継者不足解消の課題を整理しまとめた。

本稿では、観光地再生による地域活性化の試みが、これらの課題の解消につながるか考察した結果について報告する。

## 2. 北海道C郡D町の現状（課題）

対象自治体の人口と面積を表-1に示す。

表-1 対象自治体の人口

市町村	総人口	65歳以上	備考
平成2年	10,630人	1,608人	
令和3年	6,861人	2,789人	

※令和3年5月末現在

### 2.1 地域の概要とまちづくり

#### (1) 地域の概要

道東の中心地であり、基幹産業は観光と農業である。第3次産業就業者数が全人口の約70%を占めている。町の65%がE国立公園に位置しており、地域資源は豊富であり、F山やG湖など自然に恵まれている。一方で、冬はマイナス25℃になることもあり、気候条件は厳しい。その中であって、硫黄山に近接するA温泉は昭和を代表する道内屈指の温泉街であり、泉質もよく高度経済成長からバブル経済期にかけて道内人気の温泉地であった。

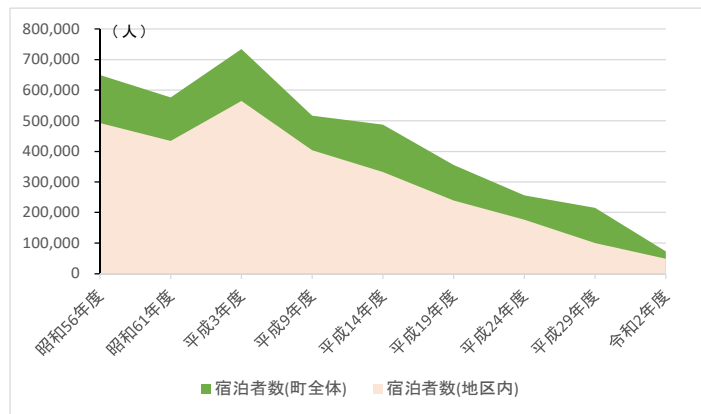


図-1 C町宿泊者数推移 (町ホームページより)

A温泉街は最盛期の半数以上の宿が廃業し、平成3年に宿泊者数約565千人であったが、年々減少し令和3年にはコロナ禍の影響もあり約48千人にまで落ち込んでいる。

#### (2) まちづくり協議会

E国立公園C町A温泉地区のまちづくり、地域の特性を活かした新たな事業を推進するため、マスタープラン策定等に関する協議及び決定を目的に、本地区再整備に関する協議会を令和4年10月に設立した。協議会のメンバーは温泉協会や組合、環境省

\* 内外エンジニアリング 株式会社 Naigai Engineering Co., Ltd.

\*\* 東京農業大学生物産業学部 Faculty of Bioindustry, Tokyo University of Agriculture  
キーワード：農村振興，社会計画，生活施設

の地元事務所，全国でリゾート開発を行う事業者が名前を連ねている。

## 2.2 マスタープランの概要

A温泉地区自体は小さな地域であるが，周囲には国立公園などの自然環境を活用して温泉街再生のためのマスタープランが策定された。マスタープランでは，廃業したホテルや観光レジャー施設跡地の活用を中心とし，遊歩道の設置など，10年以内の整備を目指した官民共同によるまちづくりとなっている。

## 3. 農業のまちづくりへの関わり

### 3.1 農業の概要（農業労働力，農産物）

C町の農業労働力の推移をみると，昭和34年1,987人から年々老僧人口が減少し，平成16年には471人となっている。近年は減少傾向が鈍化しているが，農業労働力の確保が課題となっている。近年は農業者の労働力不足，労働時間軽減を目的に酪農ヘルパー，畑作パートバンクの組合が設立され，労働力不足などの改善を図っている。本町では気候条件を活かし大規模酪農と馬鈴しょ・小麦・てん菜・そばなどの畑作農業が行われている。

### 3.2 マスタープランとの連携における留意点

マスタープランと連携して，A温泉地域内の直売場を充実させ，来訪者に対して積極的に農産物をアピールする機会となるが，連携に際し留意すべき点を以下に示す。

- ・交通インフラ整備は札幌市周辺など都市近郊に比べて劣ることを前提とする。
- ・地域資源を再発掘し，その特色や独自のサービスを時代に合うように見直す。

これらを前提条件とした上で対応策の方針を以下に示す。

- ・交通インフラ整備の劣後を逆手に取り，長期滞在を見込める滞在型リモートワークの環境を提供し，町外のみならず，道外からの来訪者を呼び込む。
- ・農業の6次産業化を推進し，町内の農林水産業の豊かな地域資源を活用できるように農作物の加工場の施設整備と，宿泊施設へ食材提供を図る。
- ・散策や食事を楽むなど，直接の利用目的以外でも滞在を充実するように図る。

さらに，単純に地域情報を列挙するのではなく，来訪者（情報の受け手）のターゲットを絞り，誰に何を伝えるかを明確して情報発信していくことが重要である。

## 4. おわりに

古い施設を今風に利用する企画を考えるコアとなる人材は地元の人材の登用がよい。流行を敏感に察知し時流に乗って企画を変化させて行く必要がある。そうすることで外部のシンクタンクに委託し，企画運営のノウハウが地元に残らずブレーンが育たないという悪循環にならないように，外部の意見を聞きながら差配できる人材が地元にいることで地域の強みを活かせるのではないかと考える。

### 参考文献（または引用文献）

高橋克英：なぜニセコだけが世界リゾートになったのか「地方創生」「観光立国」の無残な結末（講談社+α新書），講談社，2020.12.23，pp.170～173

弟子屈町：平成30年度弟子屈町の農業 弟子屈町ホームページ 2023年4月5日アクセス  
<https://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/kurashi/soshikiichiran/norinka/3/2/775.html>

高橋俊宏：株式会社ディスカバージャパンホームページ 2023年4月5日アクセス  
<https://discoverjapan-web.com/>